

第3回安全登山検討会の概要

- 1 日 時 平成30年11月1日(木) 14:00~15:30
- 2 場 所 農協会館 801 会議室
- 3 出席委員 検討会委員 18名、オブザーバー 3名

4 主な意見

(1) 現状と課題について

- ・ 富山県は、山岳遭難防止対策に積極的に取り組んできた県であるが、さらなる充実のために、関係機関の連携が重要である。
- ・ 指導体制については、コミュニケーションが何より重要である。

(2) 課題への対応の視点について

- ・ 非常に分りやすく整理されており、後述の「リスクマネジメントに基づく富山型の総合的安全登山対策」という考えにつながっている。

(3) 今後の取り組みの方向について

【登山届】

- ・ オンライン登山届「コンパス」は、IT化が進んだ今の時代に即したものである。
- ・ 加えて、登山客の受入れ体制充実や情報発信、登山道整備なども進めてほしい。

【登山道グレーディング】

- ・ 富山県山岳連盟で試験的にグレーディングを制作したが、どうしても制作者の私見が入ることがあった。
- ・ 山小屋関係者やガイド協会、県警山岳警備隊等によるグレーディング制作検討委員会で制作すれば、より良いグレーディングになると思う。

【普及啓発活動】

- ・ 自立した登山者の育成には長い時間がかかる
- ・ メーカーサイドとしては、登山者と直接対応する販売店スタッフに対する、山の専門知識に関する教育が大きな課題となっている。
- ・ スタッフのレベルアップに加えて、店舗での情報発信・啓発活動等について、官民連携しての様々な取り組みができると考えている。

【登山道等の環境整備】

- ・ 今年の立山黒部アルペンルートには、60カ国以上から全体の25%を超える人数が訪れた。
- ・ 国際山岳観光地として、ハイキングコース整備や情報発信など、受入れ体制整備について、より積極的に取り組む必要がある。

【通信環境整備】

- ・ 一般登山道として地図に記載されている部分は、携帯電話不感地帯を極力減らす必要がある。
- ・ 電源や回線の確保などが困難な山岳深奥部において、場所や利用者、伝える内容等、必要性に応じた対応について、関係機関と協力しながら検討を続ける必要がある。

【救助体制】

- ・ 本年10月に、欧州視察訓練が実施された。実践的な視察訓練とともに、各国の救助組織との人的交流を図った。

(4) リスクマネージメントの視点に基づく「富山型の総合的安全登山対策」について

- ・ 「登山前」「登山中」「遭難時」という局面に応じた課題・対策の整理という考え方は、非常に分りやすく、特に、登山前の局面でとるべき対策が多いことが分かる。
- ・ インターネットを利用した対策が強く求められている。特に「コンパス」は登山届に限らず、登山中のナビゲーションや情報収集、搜索活動への活用まで、まさにこの3つ局面全ての対策となり得るものだと考える。また、登山者や山岳関係者によるリアルタイムの登山情報共有という体制も、安全登山対策に有効である。
- ・ 一方で、登山者自らの「自助」が非常に重要であるので、グレーディングのような、登山者が身の丈に合った登山を行なうための体制作りも重要である
- ・ 富山県内には、各分野において非常にレベルの高い山岳関係者が集まっているので、その知見を生かした「富山型の登山講座」が、未組織登山者などのレベルアップに役立つと思われる。
- ・ 安全登山対策に関して、非常にレベルの高い基盤ができた。しかし、将来的に、どこかで線引きをしないと、課題、取り組みがどこまでも膨らんでしまうことを懸念する。
- ・ 自然環境への配慮という点では、富山県が取り組んでいる県民協働型ボランティアによる登山道維持活動は、参加者の意識向上や歩道の改善の両面で、非常に有効である。